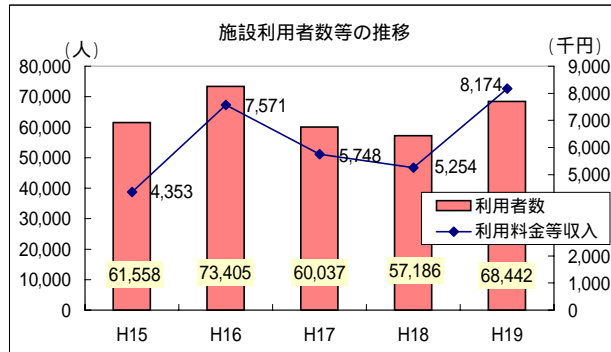


## 福井県立歴史博物館(1/2)

# 歴史博物館は 元気が出る博物館です!!

所在地	福井市大宮2丁目19-15		
設置年月日	昭和59年4月8日 (リニューアルオープン:平成15年3月12日)		
施設の種類	博物館	施設管理主体	県
設置の目的	郷土の歴史、民俗等に関する資料の収集、保管および展示等を行い、もって県民の文化の向上に寄与することを目的とする。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延9,044㎡ 展示室(トピックゾーン、歴史ゾーン、オープン収蔵庫)、情報ライブラリー、講堂		
職員数	正職員9人、非常勤嘱託1人、アルバイト4人 計14人		

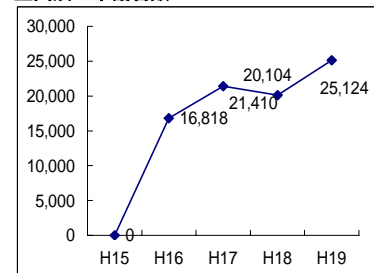
	H15	H16	H17	H18	H19
利用者数(人)	61,558	73,405	60,037	57,186	68,442



### 利用者負担(利用料金)等

入館料 (常設展)	一般・大学生	1,000円
	高校生以下	無料
	70歳以上	無料

### 企画展の来館者数



### 利用状況の推移

平成15年3月12日にリニューアルオープン後、3万人前後だった入館者数は15年度、16年度とも大幅に増加しました。

平成16年度に開催された特別展「昭和の子どもたち」は、リニューアル後 初の企画展でもあったことから1万6千人を超え、1企画当りの入館者数としては開館以来最高となりました。

その後入館者数は減少ぎみでしたが、19年度は「昭和一人と車のオルディーズ」展が1万1千人の入館者数があり、全体で対前年比20%増加しました。

### 施設の特徴

福井県の歴史や文化に関わる総合的な人文系歴史博物館として、歴史・文化遺産の調査研究、収集、展示を行い、併せてこれらに関する情報提供、普及活動をすすめています。

- ・「モノ」を中心とした展示により、「昭和のくらし」コーナーに代表されるように、気軽に観覧できる環境のもとで歴史文化資料に接することが出来ます。
- ・ミュージアムシアターでは、昭和20～30年代の記録映画等を終日上映しています。
- ・情報ライブラリーではデジタル・ハイビジョン番組を自由に見ることができます。

### 教育普及活動

- ・ミュージアムコンサートやミュージアム発見ツアーなどを企画しています。
- ・各企画展にあわせて、ギャラリートークやワークショップなどを開催しています。

### 調査研究

- ・日本海海運関係資料、北海道移住関係資料を継続調査しており今後の映像番組製作等に活用します。



「昭和のくらし」コーナー



### 19年度の特徴について

事業実績	展示活動(企画展の実施 23,196千円)
	春 「白山・祈りと癒しの山 - 」(平成19.4.28～6.3 来館者4,162人) 福井・石川県文化交流として「白山」をテーマに、聖なる山として古くから人々の信仰を集めてきた白山の魅力を紹介しました。
	夏 「昭和-人と車のオルディーズ-」(平成19.7.21～9.2 来館者11,003人) 昭和30年代前後にスポットをあて、マイカー時代の始まりの車やおもちゃを中心に展示しました。
	秋 「古代のテクノロジー - 継体大王の時代の最新技術 - 」(平成19.10.13～12.2来館者3,303人) 継体大王の時代、大陸から入ってきたモノづくりの最新技術を貴重な資料から紹介しました。
冬 「マウス&キャット」(平成20.1.3～2.24 来館者5,168人) ねずみと猫に関する郷土玩具・浮世絵等を展示しました。	
館蔵品展「ふくい文化財」(平成20.2.1～2.24 来館者1,488人) 福井江戸往還図屏風や能面などを展示しました。	
調査・研究・収集事業(21,419千円) 日本海海運と北海道移住関係資料を継続調査しており、今後の映像番組製作等に活用します。	
普及サービス活動(1,852千円) ミュージアムコンサートやスペシャルトークなどを開催しました。	

# 福井県立歴史博物館(2/2)

## 行政コスト計算書(平成19年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	97,314	29.2%	97.6%
	退職給与引当金繰入	8,063	-2.4%	-
	計	89,251	26.8%	88.9%
物にかかるコスト	物件費	128,607	38.6%	96.8%
	維持補修費	9,171	2.7%	184.9%
	減価償却費	96,133	28.8%	100.1%
	計	233,911	70.1%	102.8%
その他	公債費(利子)	7,974	2.4%	93.6%
	その他	2,440	0.7%	104.1%
	計	10,414	3.1%	91.6%
合計		333,576	100.0%	96.7%
収入	利用料等収入	6,647	2.0%	156.1%
	その他収入	2,112	0.6%	162.5%
	一般財源	324,817	97.4%	95.7%

## バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	4,380,664	98.0%	固定負債	849,621	92.7%
うち土地	736,500	100.0%	うち起債残高	778,134	92.9%
うち建物・設備	2,886,694	96.9%	うち退職手当引当金	71,487	89.9%
うち収蔵品・資料	749,220	99.5%			
投資等	0	-	流動負債	59,336	100.0%
流動資産	0	-	正味資産	3,471,707	99.3%
計	4,380,664	98.0%	計	4,380,664	98.0%

## 主な指標 (単位: %, 円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	5,373	5,464	98.3%
県民1人あたり将来負担額	1,042	1,120	93.0%
世代間負担率	79.3	78.2	101.4%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>有形固定資産のうち、建物・設備が約29億円と全体の7割近くを占めます。平成14年度のリニューアル工事に約13億円を要し、その減価償却が進んでいないためです。</p> <p>また、リニューアル工事に際して約10億円の県債借入を行っています。平成17年度から償還が始まったばかりですので、県民1人あたりの将来負担額が大きくなっています。</p> <p>平成19年度から正職員が1名減になり、非常勤職員1名配置になったため、人にかかるコストが3.2%減少しました。</p> <p>本館が築24年を経過するため、修繕箇所も多くなり、維持補修費が84.9%増加しました。</p> <p>収入面では、企画展の入館者数が増加した影響が大きく、利用料等収入が56%増加しました。また、図録の売上も伸び、その他の収入が62%増加しました。</p> <p>県民1人あたりのコスト負担は、過去2カ年と比較し、僅かに減少になっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>管理部門：施設の維持管理、資料の保管と管理 【H20予算額：約111百万円】</p> <p>事業部門： 調査研究事業 … 歴史・民俗・考古等の調査研究、資料の購入 【H20予算額：約21百万円】 企画展開催事業 … 企画展の開催(3回程度)、展示資料入替 【H20予算額：約21百万円】 教育普及事業 … ミュージアムコンサート等の開催 【H20予算額：約2百万円】</p>
今後の課題	<p>平成19年度には入館者数が増加しましたが、更に入館者数の増加を図るため、PRや情報発信の強化に努め、新規の入館者やリピーターを確保する必要があります。</p>
今後の事業方針 取組み内容	<p>利用者数のニーズなどを探りながら、新しい魅力を創造し、親しみのある身近な博物館として入館者増を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の内容充実や関連するイベントの開催、また常設展の定期的な入替</li> <li>・エントランスホールの活用によるコンサート、ミュージアムライブ、大型展示等の実施</li> <li>・小中学生向き体験学習への取組</li> <li>・学校・老人福祉施設等への訪問によるPR活動の強化</li> </ul>

